

大けやき

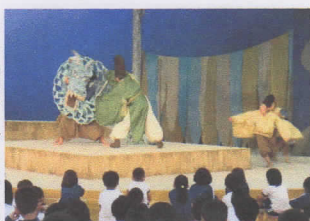
第 8 号
2.10.30
文責:校長

●11月のめあて

進んで学習しよう



本物のもつ魅力、演劇鑑賞教室



一日(木)に、体育館で演劇鑑賞教室が行われました。上三宮小の子供達と一緒に見ました。劇団風の子関西による、「風の少年シナド」と

いう劇でした。風の少年?シナドって名前?どんな話なの?どんな人たちが登場するの?いつもの体育館が、劇場に変わり、入った瞬間に胸がワクワクしていました。テレビで見る

十一日(日)の秋季大運動会で、子供達は、これまでの練習の成果を遺憾なく発揮し、最後まで全力で競技に取り組むことができました。保護者の皆様には、子供達への温かい声援と会場の準備・片付けでたいへんお世話になりました。おうちの方の声援を受けて、いつも以上に張り切っていました。また、コロナウイルス感染防止へのご協力もありがとうございました。困難な中での開催でしたが、秋晴れの中、子ども達一人ひとりの笑顔が輝く、とても思い出に残る運動会になりました。

のと違って、目の前で役者さんのお芝居を見る、貴重な体験でした。俳優さんの声や表情、着ている服装や小道具、流れる音楽、そして、舞台装置を直接感じることができました。七十分間休憩なしでしたが、子供達は、劇に夢中で、最後まで集中して鑑賞していました。表現することの魅力や感動を十分に味わうことができた。朝六時頃から会場準備をしてくださった劇団員の皆様と鑑賞費を負担してくださった保護者の皆様に感謝申し上げます。

四年生、東日本大震災を学ぶ

七日(水)には、四年生が、三春町

にある福島県環境創造センター(愛称…コミュニケーション福島)に見学に行きました。大震災から十年目、四年生が生まれた頃です。当然、大震災の記憶はありません。ですから、この見学はとても意味があります。地震、津波、原発事故の写真や解説等の展示物を見て、子供達は福島県でこんな大きな出来事があったと初めて知った子もいました。それから、がれきを撤去し、道路を作り、建物を建て、除染して今の形まで取り戻すことができたことも分かったようです。会津では直接被害を目にすることは少なかつたですが、風評被害を含めると、復興



にはこれから長い時間がかかります。子供達が、大人になり就職する頃も続いているでしょう。猪俣愛佳さんは、「地震や放射線のことを学んで、今後、習ったことをどんどん生かしていきたいな」と感想に書いていました。本校の子供達が、大震災からの復興の担い手になり、活躍してくれることを願っています。

図書券の寄付に感謝

十三日(火)、本校の卒業生である佐藤治良さんから、図書券十萬円の寄付がありました。昭和六十二年から治良さんの父、善内さんが始められました。善内さんは小さい頃から本が好きで、子供達にも多くの本を

読んで立派に成長してほしいとの思いから寄付されたそうです。亡くなられた後も、治良さんがその意志を引き継ぎ、毎年寄付されています。学校の図書室に「善内文庫」のスペースを設け、毎年、図書を購入して



できました。今年は、「家読通帳」を全員分作って、これまでに以上に読書に力を入れていきます。松山小の子供達は読書に親しみ、市内でもたくさん読む学校になりました。今年も児童が楽しみにしている本を購入したいと思います。

十一月の主な行事予定

- 校内マラソン大会 二日月
- 児童との教育相談 二日月
- 児童集会(ボランティア活動) 二日、十三日
- 職員会議(特別時程) 六日(金)
- ゲームリテラシー講演会 十七日(火)
- 児童集会(飼育栽培) 二十日(金)
- 授業研究公開(五・六年) 二十四日(火)
- 鼓笛の日 二十五日(水)

＜マスクケースの寄贈＞

J A会津よつば、J A共済連福島様より、「抗菌マスクカバー」が贈られてきました。マスクの保管に活用できます。ありがとうございました。